

2月7日

テーマ：「<sup>かぞく めんどう</sup>家族の面倒をみる」

聖書箇所：<sup>てがみだいいち</sup>テモテへの手紙第一 <sup>しょう せつ</sup>5章4節～8節

◆今日のみことば

もしも<sup>しんぞく</sup>親族、ことに<sup>じぶん</sup>自分の<sup>かぞく</sup>家族を<sup>かえり</sup>顧みない人がいるなら、その人は<sup>ひと しんこう</sup>信仰を捨てているのであって、<sup>ふしんしゃ</sup>不信者よりも悪いのです。 <sup>てがみだいいち</sup>テモテへの手紙第一 <sup>しょう せつ</sup>5章8節

◆メッセージ

テモテさんは<sup>ぼくし</sup>牧師をしていました。<sup>きょうかい</sup>教会には、<sup>おとと</sup>夫が死んでしまった<sup>おく</sup>奥さんたちがいました。このような人を「やもめ」と言います。やもめのなかには、<sup>かぞく しんせき</sup>家族や親戚がいる人たちがいました。でも、<sup>こ</sup>子どもも<sup>まご</sup>孫も<sup>しんせき</sup>親戚もない<sup>まず</sup>貧しいやもめもいました。<sup>きょうかい</sup>教会は、このような<sup>かぞく</sup>家族がいないやもめを<sup>しんせつ</sup>親切に助けていました。そして、そのやもめたちが<sup>かみ</sup>神さまを心から<sup>しん</sup>信じて<sup>きょうかい</sup>教会のために<sup>ねっしん</sup>熱心にお祈りをしていたので、<sup>きょうかい</sup>教会は<sup>かみ</sup>神さまからたくさんの<sup>しゅくふく</sup>祝福をいただいていたました。



ところが、<sup>かみ</sup>神さまを信じているのに<sup>じぶん</sup>自分の<sup>かぞく</sup>家族を<sup>たいせつ</sup>大切にしない人たちが<sup>きょうかい</sup>教会にいました。<sup>かぞく</sup>家族のなかに<sup>まず</sup>貧しい生活をしているやもめがいても<sup>たす</sup>助けてあげようとしない人たちがいたのです。<sup>ひと</sup>親切な人たちに<sup>まか</sup>任せておけばいいや、と<sup>あま</sup>甘えていたのでしょうかね。それで、パウロさんはテモテさんに、<sup>かぞく</sup>家族のなかにいるやもめを<sup>たいせつ</sup>大切にすることと、<sup>かぞく</sup>家族の他の人たちも<sup>たいせつ</sup>大切にすることを<sup>おし</sup>教えてあげなさい、と<sup>てがみ</sup>手紙に書きました。



私たちに<sup>かぞく</sup>とって<sup>とくべつ</sup>家族は特別な人たちです。<sup>ちい</sup>小さいときから<sup>おな</sup>同じ家に<sup>す</sup>住んで、<sup>はん</sup>いっしょにご飯を<sup>た</sup>食べ、<sup>み</sup>いっしょにテレビを<sup>み</sup>見たりします。<sup>びょうき</sup>私たちが<sup>しんばい</sup>病気になる<sup>はや</sup>と心配して、<sup>げんき</sup>早く元気になるように<sup>かみ</sup>神さまにお<sup>いの</sup>祈りをして<sup>くれ</sup>くれます。そして、<sup>げんき</sup>元気になる<sup>よろこ</sup>ととても喜<sup>んで</sup>くれます。<sup>かみ</sup>神さまを<sup>しん</sup>信じている<sup>かみ</sup>私たちは、<sup>かみ</sup>神さまの<sup>まも</sup>ことばを守ろうとします。<sup>きもち</sup>その<sup>いえ</sup>気持は、<sup>かぞく</sup>家で<sup>かみ</sup>家族と<sup>かみ</sup>いっしょにいる<sup>まも</sup>ときも<sup>かみ</sup>変わり<sup>かみ</sup>ません。神さまが<sup>よろこ</sup>喜んで<sup>し</sup>くださることを<sup>かみ</sup>知っている<sup>しん</sup>からです。神さまを<sup>しん</sup>信じている

のに、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>かぞく</sup>家族を<sup>たいせつ</sup>大切にしない人<sup>ひと</sup>を<sup>かみ</sup>神さまは<sup>よろこ</sup>喜ばれません。それどころか、<sup>かみ</sup>神さまに<sup>はんたい</sup>反対する<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>のよう<sup>てがみ</sup>です、とパウロさんは<sup>か</sup>手紙に<sup>か</sup>書きました。

<sup>かみ</sup>神さまは<sup>かぞく</sup>私たちに<sup>あた</sup>家族を<sup>かみ</sup>与えて<sup>おお</sup>くださいました。これは<sup>おお</sup>神さまからの<sup>めぐ</sup>大きな<sup>おお</sup>恵み<sup>めぐ</sup>です。この<sup>かみ</sup>大きな<sup>かみ</sup>恵み<sup>めぐ</sup>を<sup>かみ</sup>神さまに<sup>かんしゃ</sup>感謝<sup>かぞく</sup>して、<sup>たいせつ</sup>これからも<sup>か</sup>家族を<sup>か</sup>大切に<sup>か</sup>しまし<sup>か</sup>ょう。

◆お祈り

「私たちに<sup>かぞく</sup>家族を<sup>あた</sup>与えて<sup>かぞく</sup>くださり<sup>たいせつ</sup>ありがとうございます。これから<sup>か</sup>家族を<sup>か</sup>大切に<sup>か</sup>できますよ<sup>か</sup>うに<sup>たす</sup>助けて<sup>か</sup>ください。」

(支援教師 中村矢枝子)